

令和元年6月24日現在

機関番号：34309

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20720

研究課題名(和文) 救急外来におけるトリアージナース支援プログラムの開発とその評価

研究課題名(英文) Building of a Triage Nurse Support Program for Emergency Department

研究代表者

野島 敬祐 (nojima, keisuke)

京都橘大学・看護学部・専任講師

研究者番号：70616127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：全国の救急外来に勤務するトリアージナース363名の回答に基づき、トリアージの能力不足、多忙なトリアージ業務、説明に理解が得られない患者、待たせている患者の訴え、トリアージ能力を高める支援の5因子で構成されるストレス尺度の信頼性および妥当性を確認した。次に専門家集団により、救急外来でトリアージを担当しているトリアージナースを支援するためのプログラムを作成した。関西圏の3病院において、トリアージナースへの支援プログラムをアクションリサーチ方を基に実施し、支援プログラムの有効性を検証した。今後も多く多くの病院でプログラムを実施していく計画である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国の救急外来におけるトリアージナースの疲弊は深刻な問題である。これまでトリアージナースに特化したストレス尺度は存在していなかったが、今回の尺度開発により、臨床現場で簡便にストレスを計測できるようになった。また、本研究で開発した支援プログラムが拡充すれば、トリアージナースの疲弊防止や負担軽減につながり、救急看護・医療の質の保証に繋がるといえる。

研究成果の概要(英文)：A stressor scale was created based on the responses of 363 triage nurses who work in emergency department. The scale is composed of five factors: "lack of triage ability", "busy triage work", "patients who can not understand the explanation", "patient complaints waiting", and "support for improving triage ability". It was done. The reliability and validity of the scale were confirmed. Next, a group of experts created a program to support triage nurses who were in charge of triage in the emergency department. At three hospitals in the Kansai region, we implemented a support program for triage nurses based on the action research method, and verified the effectiveness of the support program. We plan to carry out the program at many hospitals in the future.

研究分野：救急看護学

キーワード：トリアージナース ストレス 救急外来 ストレス尺度 ストレス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国の救急外来において、救急外来で医師の診察の前に看護師が、診察や治療の優先順位を決めるトリアージナースを導入している病院が急増している。その背景には、軽症患者のコンビニ受診増加、医師や看護師の不足などの問題があり、単に来院順に診察するという対応では、患者の生命の危機を見逃す危険性があることが指摘されている(西塔,2011;濱元ら,2012)。

トリアージナースを導入することの意義について、渡邊(2011)は、患者の状態が悪化する危険性を未然に防ぐことが出来たり、患者満足度が高くなるなどの効果をもたらし、医療の質の向上に繋がると述べている。そのため、今後、救急外来においてトリアージナースの普及は拡大していくことが予測される。

トリアージナースは患者の治療の優先順位を決定するため、医師が診察を行う前に、問診、フィジカルアセスメント、外来のマネジメント、家族への対応などを一人でこなさなければならない。このような多くの役割や責任の重さ、求められる能力の高さから、トリアージナースは多くのストレスを受けていることが問題視されている。先行研究では、トリアージナースの業務は非常にストレスフルであることや(木澤,2009)、自分のトリアージに自信が持てず、不安を感じていることが報告されている(西塔,2005)。このようなストレスや不安が、トリアージナースを疲弊させ、トリアージの質の低下やトリアージナースのバーンアウトへとつながり、今後、良質なトリアージシステムが維持できなくなることについて危惧されている。しかし、学術的には、トリアージナースのストレスが課題であると述べている報告はあるが、トリアージナースのストレスの内容について言及した研究は行われていなかった。そこで、申請者は前段階の研究として、全国のトリアージナースへのインタビューを実施し、トリアージナースのストレス内容について明らかにした(野島,2013)。その結果、トリアージナースには救急看護師として受けるストレスとトリアージナース特有のストレスの双方を抱えており、今後、わが国において良質なトリアージシステムを普及させるために、トリアージナースが受ける特有のストレスを軽減させるサポートが必要である。

2. 研究の目的

わが国において良質なトリアージシステムを普及させるために、トリアージナースのストレスを軽減できる支援プログラムを開発し、評価を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

研究計画は大きく3段階に分かれる。

第1段階は、申請者の前段階の研究結果と関連する先行研究からストレスを測定するための質問紙を作成した。全国のトリアージナースに質問紙を郵送し、回収した質問紙を集計し、統計解析ソフトウェア SPSS (Ver.20 for Windows) を用いて因子分析により構成概念妥当性の検討、既存の心理尺度として心理的ストレス反応を簡便に測定できる尺度である鈴木ら(1997)が開発した Stress Response Scale-18(SRS-18)を用いて基準関連妥当性の検討を行い、クロンバック 信頼性係数(Cronbach's alpha)を算出することでトリアージナースのストレス尺度の信頼性・妥当性を検証した。

第2段階は、申請者の前段階の研究結果と関連する先行研究から支援プログラムの内容案を検討し、看護学研究者と救急看護師によるフォーカスグループインタビューを実施し、内容を逐語録に起こし、支援プログラム内容が、トリアージナースが受けるストレスに対する支援として十分かどうか、支援プログラムに参加することによって不利益が生じないかどうか、支援プログラムが実施可能かどうかなどを検討した。検討した結果、支援プログラムの修正や削除、追加などの整理を行った。

第3段階は、近畿圏の救命救急センターにおいて、支援プログラムに参加できるトリアージナースと対照群を募集した。支援プログラムは1か月に1回を合計3回、参加群と対照群に実施前後に質問紙を回答してもらった。回答について参加群は実施会場で直接行い、対照群は郵送回収を行った。分析は、参加群の支援開始前、支援終了後の得点を比較し、支援プログラムの有効性を検証した。

4. 研究成果

研究者が前段階で行った研究結果であるトリアージナースのストレスの内容からトリアージナースのストレス尺度に必要な質問項目内容を抽出した。救急看護学に精通した研究者からのスーパーバイズを受けながら、トリアージナースの属性8項目、トリアージナースのストレス尺度87項目、臨床看護職者のストレス尺度(NJSS)33項目、Stress Response Scale-18(SRS-18)の18項目の合計146項目の質問紙を作成した。全国の救急外来に勤務するトリアージナースに質問紙を郵送し、回答を依頼した。その結果、363名の回答に基づき、87項目の因子分析を行い、トリアージの能力不足、多忙なトリアージ業務、説明に理解が得られない患者、待たせている患者の訴え、トリアージ能力を高める支援の5因子44項目で構成されるストレス尺度を作成した。

次に作成したトリアージナースのストレス尺度の信頼性・妥当性を検証した。本尺度は Cronbach's 係数が高いこと、再テスト法により、すべての因子間で中程度の相関がみられ、

内的一貫性、安定性はある程度確認された。また、因子分析では予備研究で見出されたストレス内容とほぼ一致する5因子が抽出され、既知グループ法の仮説が検証されたことで構成概念妥当性確認され、さらに、本尺度とSRS-18、NJSSの総得点は共に正の相関があり、基準関連妥当性が確認された。

作成したトリアージナースのストレス尺度を用いて、救急外来でトリアージを担当しているトリアージナースを支援するためのプログラム案を作成した。専門家集団として、救急看護学に精通した看護学研究者、救急看護に携わる経験年数10年程度の看護師の意見を聞きながら、トリアージに必要な知識や技術を学ぶ(講義)、トリアージ場面のシミュレーション(演習)が含まれたプログラム案が完成した。演習ではシミュレーション教育を取り入れるため、シミュレーション教育に関する学習会及び関連学会に参加し、知見を集めた。また同時に、プログラムを救急外来で実施するためのアクションリサーチの内容を検討し、実施できる病院を模索した。

関西圏のA病院において、2018年1月から3月までの3か月間において、研究協力の同意が得られた病院の看護師長とプログラム導入について打ち合わせを行った。ERで勤務するトリアージナースを参加群と対照群とに分け、支援プログラム案を実施し、評価としてストレス尺度を使用した。支援プログラムは全3回であり、出席者は9名、対照群は10名であった。プログラムには参加群のトリアージナースが全員参加することができた。はじめにストレス調査を行い、トリアージナースのストレスの特徴を把握した。その内容をもとに、ERのスタッフとともに支援内容の最終案を検討した。プログラムは無事に3回とも終了し、終了後に再度ストレス尺度調査を行った。参加群及び対照群のストレス尺度の回収率は100%であった。ストレス結果は、トリアージナースのストレス尺度の下位項目で、「待たせている患者の訴え」の得点が有意に高かった。そのため、共同研究者である救急外来の認定看護師とともに、ストレス軽減のための、プログラムを作成した。プログラムはその救急外来によくある事例を基に、認知行動療法をベースとしたグループワークをメインとした内容である。3~4週間に一度、合計3回を4か月間にわたり実施した。実施後のストレス調査では、「待たせている患者の訴え」の得点は有意に減少した。しかしその一方で、「多忙な業務」の得点が高かった。

B県の救急外来において同様のプログラムを実施した。この際も「待たせている患者の訴え」が高得点を示し、支援プログラムを病院管理者と共に検討し、実施した。その結果、「待たせている患者の訴え」は低下を認めたが、他の複数項目で高得点を示した。以上のことから、待っている患者への対応に注力したことから、業務の多忙さのストレスに影響したと推察できる。今後は、支援プログラムの洗練に加え、各因子間の関連も検討する必要があることが明らかになった。

次にC県の救急外来で同様の支援プログラムを実施し始めている。年度内では、実施前のストレス調査をお願いしているところで終了した。今後引き続き、多くの救急外来で支援プログラムを検討していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

[NOJIMA Keisuke](#) (2016) Stress in Triage Nurses in Emergency Departments: A Concept Analysis. *Journal of the Academic Society for Quality of Life.*(2) 1-7.

〔学会発表〕(計 5 件)

[keisuke nojima](#) (2016) Stressors linked to other hospital jobs of triage nurses with inadequate emergency nursing experience. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars

[keisuke nojima](#) (2016) Trends and issues related to triage nursing at the emergency department in Japan. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars

野島敬祐・高見沢恵美子(2016)救急外来におけるトリアージナースのストレス尺度の開発. 第36回日本看護科学学会学術集会

[keisuke nojima](#) (2018) Building of a Triage Nurse Support Program for Emergency Department. 2th Nursing Science & Practice

野島敬祐・阿潟浜里枝(2018)トリアージナースが受けるストレスに対する支援プログラムの評価. 日本救急看護学会第20回学術集会

6. 研究組織

研究分担者・研究協力者なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。